三重県立美術館
Mie Prefectural Art Museum
没後200年記念
増山雪斎
MASHI-YAMA SESSAI
展
虫好き大名、
今日も描く。
2019
4/20 sat ▼ 6/16 sun
休館日＝毎週月曜日
（但し4月29日、5月6日開館）、5月7日（火）
開館時間＝午前9時30分ー午後5時
（入館は午後4時30分まで）
主催＝三重県立美術館、朝日新聞社
助成＝公益財団法人岡田文化財団、
公益財団法人三重県立美術館協力会
特別協力＝国立文化財機構文化財活用センター、
東京国立博物館
後援＝桑名市、桑名市教育委員会
※会期中、作品の展示替えを行います。
増山雪斎《虫豸帖》東京国立博物館所蔵 ImageINM Image Archives
増山雪斎《猫図七言絶句》文化11年（1814）個人蔵
増山雪斎《草花蜻蛉図》個人蔵

伊勢国長島藩第5代藩主・増山正賢（1754-1819）は、書画に長けた文人大名として、「雪斎」の号で知られています。画は、清の沈南蘋に私淑し、山水人物から花卉草虫に至るまで、数多くの作品を遺しました。とりわけ、虫類を真写した博物図譜、南蘋流の花鳥画にみられる表現の精緻は、高く評価されてきました。雪斎の細やかな写生は、江戸博物学の発展という時代背景とともに、愛護の心に富んだ人格によるものといえます。雪斎の師友に対する情はあつく、江戸詰のお抱え絵師の春木南湖を長崎に遊学させて、来舶清人・費晴湖に画を学ばせるなど厚遇し、また大坂の木村蒹葭堂が零落した時は、しばらく領内にて庇護し、その苦境を支えました。藩も身分も越えた親交は、雪斎の文人的教養を高めるにとどまらず、長島藩の文化振興にも影響を与えました。本展覧会では、没後200年という節目の年にあたって、雪斎の業績を顕彰し、雪斎の画業をたどる作品、雪斎とこの地に関わりのある画家の作品を広く紹介します。

❶春木南湖《雪斎公肖像画》部分 文化14年（1817）個人蔵、❷増山雪斎《老松梟鳥図》寛政4年（1792）個人蔵
❸増山雪斎《黄蜀葵に翡翠図》個人蔵、❹木村蒹葭堂『蒹葭堂日記（羽間文庫本）』大阪歴史博物館所蔵
❺増山雪斎《虫豸帖》東京国立博物館所蔵

夜中、窓の前にとまったミミズクを描きました。

雪斎は、花や鳥などの絵が得意でした。

雪斎の親友、蒹葭堂の日記。

Image: TNM Image Archives

観覧料

一般 900（700）円、学生 700（500）円
高校生以下無料

（ ）内は、前売りおよび20名以上の団体割引料金
●この料金で常設展示もご覧いただけます。
●学生の方は生徒手帳・学生証等をご提示ください。
●障害者手帳等をお持ちの方および付添いの方1名は観覧料無料。
●家庭の日（毎月第3日曜日）は団体割引料金となります。
●主な前売り券販売所：チケットぴあ、セブン-イレブン、ファミリーマート他

次回の企画展

2019年7月6日（土）-9月1日（日） デンマーク・デザイン展

●ギャラリー・トーク

本展担当学芸員が、展覧会や作品の魅力についてお話します。観覧券をお持ちの上、企画展示室にお集まりください。約20分。
5月11日（土）、6月8日（土） 午後2時から
事前申込不要・聴講無料

●特別講演会

「雪斎 風雅を愛でる」
5月18日（土）午後2時から午後3時30分
（午後1時30分開場）
講師：**山口泰弘**（三重大学教育学部教授）
会場：**三重県立美術館講堂**
定員：150名／聴講無料・事前申込不要

Mie Prefectural Art Museum
三重県立美術館
〒514-0007 三重県津市大谷町11
TEL 059-227-2100
FAX 059-223-0570
http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/
Follow us on Twitter @mie_kenbi

交通
近鉄・JR津駅西口より徒歩約10分、または、津駅西口1番のりばより、三重交通バス「西団地循環」、「津西ハイタウン行き（むつみ・つつじ経由）」、「夢が丘団地行き（総合文化センター前経由）」、「総合文化センター行き」のいずれかに乗車約2分、「美術館前」下車徒歩約1分

beyond 2020
宝くじ あなたに夢を。術に元気を。
クーちゃん